

Academic Skills in the U.S.

春休みにあった嬉しい出来事のひとつ、それは日本での授業、Academic skills for study abroad（松本先生の授業です!）の受講生とポートランドで集合したことです。

この授業には前期と夏季講座があり、受講生の多くが現在英語圏に留学中です。受講生たちの留学先は、北米、ヨーロッパのなど多岐にわたっています。今回ポートランドで集まることができたメンバーは、同じオレゴン州にあるオレゴン大学に留学中の徳平さん（ティーチングアシスタントとして受講生のサポートをしてくれていた、Academic skills 受講生の先輩です）と、同じポートランド州立大学に通う太田さん（夏季講座の受講生）です。3人の予定を合わせた結果、冬学期のテストを終えた当日に集合することとなったため何かとバタバタしていましたが、久しぶりに見る顔に安心しました。同時に、授業の様子や寮での暮らし、お互いの近状を伝え合ったことでまた春学期からも頑張ろうという気持ちにもなれました。

留学前、この授業を通して出会った人にはたくさんの影響を受けました。先生はもちろんTAの先輩方や受講生にも。はっきりと留学に向けての意気込みを話す学生に圧倒されたり、また、書ききれないエッセイと一緒に奮闘したりと、マイペース

にのんびり考えがちな私にとっては留学前にいい刺激をたくさんもらうことができました。その同じ授業を受けていた皆も違う場所でそれぞれ頑張っているとなれば、モチベーションも上がります。受講生とは、帰国後にまた再会できるのがとても楽しみです。留学中のみんな、残りの留学期間頑張しましょう!

これから

この街で暮らすようになって半年以上が過ぎ、たくさんの人に出会い、ここに来たばかりの去年の9月よりも一段とポートランドの好きなところが増えてきました。日本で想像していたアメリカ人の暮らしはもっと不便で危険なものでしたが（この間アメリカ人の友達と話していたときに、「アメリカ人は皆当たり前のように銃を持っていると思っていた」と告げたらだいぶ驚かれました笑）、実際はとても快適で、出会う人もいい人ばかり。すっかりポートランドでの暮らしに馴染んでいます。

こちらで受講した異文化コミュニケーションで学んだことの一つですが、留学生などが新しい土地で経験するカルチャーショックや期待、馴染みのない文化への適応などの過程をアルフ



ァベットのU字で表すUカーブ仮説という考えがあるそうです。初めはU字の頂点である期待や新しい文化への興味で気持ちが高まり、時間が経つにつれうまくいかないことや期待と現実の違いなどに落ち込むU字の真ん中の時期があり、それを乗り越えたとまた、文化に適応しモチベーションが高まりU字の頂点に戻っていく、という考えです。

今の私はいったいどの地点にいるのでしょうか。留学が始まりたてで毎日が新鮮だった秋学期、授業についていくのに必死になり落ち込むことも多かった冬学期。その仮説に当てはめるとしたら、この春学期はまたU字のてっぺんに向かって行っているように思います。もちろんまったくきれいにU字をたどっているのではなく、いいことも満足いかないことも未だにたくさん経験しますが、3度目の学期になってだいぶ気持ちにも余裕ができたのか、授業も友達と過ごすこともここでの暮らしが本当に楽しいものに思えます。

同じ時間を過ごすなら、もううまくいかないことに焦ったりしてはもったいない。良いことから悪いことから何か学べるのではないかと、何事もプラス思考にとらえられるようになりました。そしてただ楽しんで現状に満足してしまうのではなく、残された期間を向上心は忘れずに自分のできるところまでやってみようと思います。

（2010年4月25日）

早稲田の学生の留学エッセイは、下のサイトでお読みになれます。
www.infoe.com/IMZ/WASEDA/WSD-List-1.htm



春の訪れと共に、留学も終わりに近づいてきました。これまでを振り返ると同時に、残された日々学び・経験することに、三浦さんは積極的です。

Academic Skills の同級生・TAと留学先で再会して、話に花が咲いているのが目に見えるようです。留学中の学び・経験・友情は、先輩達には「宝」となっています。三浦さんも、がんばってください。